

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人文京アカデミー	
施 設 名	響きの森文京公会堂（文京シビックホール）	
助成対象活動名	普及啓発事業	
内定額(総額)	4,266	(千円)
	公演事業	0 (千円)
	人材養成事業	0 (千円)
	普及啓発事業	4,266 (千円)

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	meet the music in Bunkyo 音楽普及プログラム	①5月～11月 ②5月11日(木) ③2月16日(金) ④(1)11月3日 (金・祝) (2)3月14日(木) ⑤8月26日(土) ・27日(日)	①小中学校出前コンサート [出演] 東京フィルハーモニー交響楽団 シエナ・ウインド・オーケストラ 鼓童 ②アーティスト・イン・音楽室 [出演] 藤井里佳(パーカッション) 山本愛香(ピアノ、ジャンベ) [曲目] 楽器&リズム体験 ほか	目標値	参加者数 ①1,200 ②80 ③30 ④100 入場者数 ⑤635
		①区内小中学校6校 ②区立指ヶ谷小学校 ③区立大塚福祉作業所 ④(1)傳通院 (2)東洋文庫ミュージアム ⑤文京シビックホール 小ホール	③響きの森アーツキャラバン [出演] 田ノ岡三郎(アコーディオン) [曲目] パリの空の下 ほか ④文の京コミュニティコンサート [出演] (1)あべや(阿部金三郎、阿部銀三郎[津軽三味線]、根本麻耶[唄]) (2)益田正洋(クラシック・ギター) [曲目] (1)津軽じょんがら節 ほか (2)アルハンブラの思い出 ほか ⑤東京フィル・親子で楽しむ “はじめてのオーケストラ” [出演] 東京フィルハーモニー交響楽団 松村秀明(指揮) 赤星啓子(ソプラノ) 高橋 淳(テノール) 晴 雅彦(バリトン) [演目] 音楽劇「白雪姫」ほか	実績値	参加者数 ①1,765 ②56 ③64 ④394 入場者数 ⑤535
2	吹奏楽普及プログラム	①7月3日(月) ～27日(木) ②12月9日(土) ほか ③11月11日(土)	①中学生のための吹奏楽クリニック ②シエナ de アン・コン! ～アンサンブルコンテスト～ ③吹奏楽3upプロジェクト	目標値	参加者数 ①100 ②162 ③100
		①文京区立中学校 ②文京シビックホール 小ホール ほか ③文京シビックセンター 一内施設		①～③ 講師・出演: シエナ・ウインド・オーケストラ	実績値

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>「地域の芸術文化活動の拠点として、地域の人たちが良質な文化芸術を気軽に楽しみ、自ら文化芸術に関わることができる場や機会を提供すること」というホールのミッションに基づき、普及啓発事業2事業を、予定通りに実施することができた。</p> <p>■meet the music in Bunkyo 音楽普及プログラム</p> <p>小中学生を対象としたプログラム（①小中学校出前コンサート、②アーティスト・イン・音楽室）では、事前に対象校との打合せを行い、楽器体験や指揮者体験等を含めた参加型のプログラムを実施。子どもの音楽への関心を高めることができた。区内施設との連携によるプログラム（③響きの森アーツキャラバン、④文の京コミュニティコンサート）では、会場となる施設の希望や規模にあわせて出演者を調整し、多くの方に本格的な演奏を楽しんでいただくことができた。0歳から入場できる親子対象のプログラム（⑤東フィル・親子で楽しむ“はじめてのオーケストラ”）では、オリジナルのプログラム・台本を作成し、親子で楽しめる音楽体験の場を創出することができた。</p> <p>■吹奏楽普及プログラム</p> <p>中学生を対象にしたワークショップ（①中学生のための吹奏楽クリニック）では、各学校の要望にあわせてシエナ・ウインド・オーケストラの団員を中学校に派遣。楽器の使い方や音のイメージの描き方、パート練習に使える基礎練習法の習得等、普段の教員のみでの指導では手の届かないところを中心に技術向上を図ることができた。吹奏楽経験者を対象にしたプログラム（②シエナ de アン・コン！～アンサンブルコンテスト～、③吹奏楽 3up プロジェクト）では、プロの演奏家がコンテストでの演奏曲について具体的に指導することにより、今後の演奏技術の向上につながると高評価を得ることができた。また、コンテスト本番演奏直後の審査員による講評は、演奏者だけでなく来場者にもとても参考になったと好評だった(②)。初心者も参加できる楽器体験コーナーでは、色々な楽器を楽しむ来場者も多かった(③)。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>■文化的意義</p> <p>全ての普及啓発事業において、事業提携団体と連携し、地域に密着した幅広い事業を展開した。その結果、ホールが「プロ」と地域の「人」をつなぐ役割を果たすとともに、区内における文化芸術の水準の向上に結び付いた。</p> <p>■社会的意義</p> <p>「meet the music in Bunkyo 音楽普及プログラム」においては、学校や施設の要望を基にアーティストとオリジナルの企画内容を作り、ホールに出向くことが難しい方々に生の音楽を届ける機会となった。</p> <p>■経済的意義</p> <p>「文の京コミュニティコンサート」では、1回目を文京区主催のイベント「時代まつり in 文京」の関連企画としてイベントの中心地であるお寺で開催。物産展や縁日が立ち並ぶ中、コンサートを目的とした来場者も多く、地域の賑わい創出に貢献した。2回目はミュージアムで実施し、ミュージアムの来場者数増加につながった。</p> <p>「吹奏楽普及プログラム」においては、助成を得たことで、参加者の経済的な負担を軽減できた。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

■meet the music in Bunkyo 音楽普及プログラム

小中学校出前コンサート、アーティスト・イン・音楽室

・プログラム内容についての満足度：

[令和5年度(目標)] 3.2(4段階中) → [令和5年度(実績)] 3.8(4段階中) 【達成】

響きの森アーツキャラバン

・プログラム内容についての満足度：

[令和5年度(目標)] 3.2(4段階中) → [令和5年度(実績)] 4(4段階中) 【達成】

文の京コミュニティコンサート

・入場率：[令和5年度(目標)] 満席(100%) → [令和5年度(実績)] 228% 【達成】

各会場の規模に応じて事前予約不要、立ち見での観覧を可としたため、座席数に対する入場率が大幅に上昇した。

東京フィル・親子で楽しむ“はじめてのオーケストラ”

・券売率(2回公演)：[令和5年度(目標)] 完売(100%) → [令和5年度(実績)] 98.7% 【未達成】

・アンケートによる満足度集計：[令和5年度(目標)] 3.8点(4点満点)以上

→ [令和5年度(実績)]

平均3.7点(4点満点/公演内容3.8点、チケット料金3.6点、スタッフ対応3.7点) 【未達成】

公演内容の満足度は目標値を達成したものの、チケット料金の満足度は目標を下回った。次年度以降に向けて、子ども料金や当日料金の設定について検討を行う。

■吹奏楽普及プログラム

中学生のための吹奏楽クリニック

・吹奏楽部顧問及び生徒を対象にアンケートを実施(回答率88.1%)。

[令和5年度(目標)] 指導内容についての満足度3.6(4段階中)以上

→ [令和5年度(実績)] 3.9(4段階中) 【達成】

普段の部活指導では手の届かない部分を中心に技術指導を行うことができ、大変好評だった。

シエナ de アン・コン! ~アンサンブルコンテスト~

・応募団体数の増加：[令和5年度(目標)] 40団体 → [令和5年度(実績)] 32団体 【未達成】

B部門(中学校)・C部門(高等学校)については、区内や近隣区を中心に応募要項を送付するなどの広報を行い、定数を超える応募があったものの、A部門(小学校)とD部門(大学・一般)については定数を下回った。

特に、A部門は区内の小学校に限定して募集を行ったが、吹奏楽連盟のイベントと日が近く、応募がなかった。

・アンサンブルコンテスト(吹奏楽連盟主催)の地区大会における金賞獲得数：

[令和5年度(目標)] 4団体 → [令和5年度(実績)] 6団体 【達成】

吹奏楽3upプロジェクト

・参加者数：[令和5年度(目標)] 100名 → [令和5年度(実績)] 85名 【未達成】

吹奏楽部員や一般の演奏者を中心に、幅広い層にアプローチすることができた。「楽器体験コーナー」「試奏コーナー」での参加が少なく、目標値には到達できなかったものの、ホールの改修工事による別施設での開催時(令和4年度)と比較すると50名以上参加者が増えており、チラシ、広報紙及びSNSでの情報発信による事業周知に一定程度効果があったと考えられる。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

実施時期の偏りが生じないように、全体のバランスを考えながら実施時期を設定した。

■meet the music in Bunkyo 音楽普及プログラム

「小中学校出前コンサート」「アーティスト・イン・音楽室」「響きの森アーツキャラバン」「文の京コミュニティコンサート」においては、要望時に日程・内容未定となっていたが、新年度になってから学校及び施設側とのスケジュール調整を行い、下見や打合せ、プログラムの決定等に余裕を持って取り組むことができた。

「東京フィル・親子で楽しむ“はじめてのオーケストラ”」においては、夏休みの子ども向け公演として8月に実施した。子ども連れの保護者からのニーズに沿い、開演時間を午前中に設定した。4月から広報を開始し、チラシの配布や広報紙への掲載、SNSでの発信等を進めた結果、券売率を目標値に近づけることができた。

■吹奏楽普及プログラム

「中学生のための吹奏楽クリニック」は、東京都吹奏楽連盟コンクール直前の7月に実施し、各校3回×10校を計画通りに実施した。

「シエナ de アン・コン!～アンサンブルコンテスト～」は予定通り吹奏楽連盟のアンサンブルコンテスト地区大会前の12月に実施した。

「吹奏楽3upプロジェクト」も予定通りの日程で開催し、広報は約3か月前より開始した。参加者数が予定を下回るプログラムもあったため、次年度に向けて広報の実施時期や広報媒体を再考する。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

全ての事業において、概ね予定通りに事業を遂行できたことから、事業費は要望書から大きく乖離することなく執行できた。アウトリーチや無料の事業が多いことから収益率は低いですが、公共ホールとして豊かな区民生活の形成に取り組むことができた。

■meet the music in Bunkyo 音楽普及プログラム

「小中学校出前コンサート」については、実施回数を各校と調整のうえ決定しているが、今年度は各校1回（合計6回）の実施となったため、出演者への委託費（支出）が減少した。

	①予定	②実績	差額 (①-②)	要望比 (②/①)
収入	1,602,000円	1,674,300円	▲72,300円	104%
支出	8,573,000円	7,483,689円	1,089,311円	87%

■吹奏楽普及プログラム

「シエナ de アン・コン!～アンサンブルコンテスト～」については、コンテストへの参加費（事前レッスン代を含む）を徴収しているが、参加団体数が見込みより少なかったため、収入が減少した。

	①予定	②実績	差額 (①-②)	要望比 (②/①)
収入	96,000円	64,500円	31,500円	67%
支出	2,186,000円	2,150,888円	35,112円	98%

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当ホールでは管弦楽（東京フィルハーモニー交響楽団）、吹奏楽（シエナ・ウインド・オーケストラ）、伝統芸能（太鼓芸能集団 鼓童）、バレエ（牧阿佐美バレエ団）と、異なる4つの分野の実演芸術団体と事業提携し、年間を通じてそれぞれの分野のトップレベルの公演を区民に提供してきた。特に、助成事業においては、福祉、医療、教育、子育て等の区所管課及び関係団体との連携により、性別や年齢、置かれた状況等に関わらず、誰もが創造的な活動に自ら参加することができる環境づくりを行うことができた。

■meet the music in Bunkyo 音楽普及プログラム

小中学校出前コンサート

小中学校の教員と連絡を密に取り合いながら、学校の希望に沿ったプログラムを作成。当日は、指揮者体験コーナーや手拍子での参加など、事業提携団体と児童・生徒が一体となって楽しむことができた。地域の中で、子ども達の文化芸術への興味や関心を広げるとともに、次世代の文化の担い手の育成にもつながる結果となった。

アーティスト・イン・音楽室

音楽室にある楽器を使ったコンサートで、アーティストの存在をより身近に感じる機会となった。次年度以降の継続開催を望む声もあり、児童・教員ともに満足度の高いプログラムを実施することができた。

響きの森アーツキャラバン

区の障害福祉課と連携することで、障害福祉サービス事業所の利用者を対象に事業を実施することができた。

文の京コミュニティコンサート

区内にある博物館、美術館及び庭園等に事業の提案を行い、2施設と連携した事業を実施することができた。

東京フィル・親子で楽しむ“はじめてのオーケストラ”

子どもたちがよく知っている童話「白雪姫」と、オペラ歌手やミニオーケストラによる本格的な演奏を組み合わせ、家族でクラシック音楽に親しめる事業となった。

■吹奏楽普及プログラム

中学生のための吹奏楽クリニック

区立中学校との日頃からの連携も活かしつつ、事前に学校側のニーズを把握し、調整をした上でシエナの団員を中学校に派遣した。これにより、学校側の要望や生徒のレベルに合わせた指導を行うことができた。

シエナ de アン・コン!～アンサンブルコンテスト～

吹奏楽コンテストや吹奏楽曲の発表会に利用され、多くの吹奏楽ファンや中学・高校の吹奏楽部員が集うホールである特性を考慮し、アンサンブルを組む吹奏楽演奏者に発表の場とスキルアップの機会を提供できた。演奏直後にはシエナの団員による講評を設けており、参加者と来場者双方から好評であった。

吹奏楽 3up プロジェクト

吹奏楽部等で日頃から演奏に親しんでいる人の演奏技術の向上（Level up）や、かつて演奏していたがまた演奏を楽しみたいという人（Wake up）、楽器を手取るのは初めてという人（Pick up）をメインターゲットに実施した。コンサートの会場となるホールとオーケストラが連携・協力し、演奏技術の向上や音楽を継続する動機づけを行うことができた。

このように、創意工夫を凝らして柔軟に対応し、各事業を通じて地域の文化拠点としての機能を大きく発揮できたと考える。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

子育て世代からの多様化するニーズに応えるため、子どもと一緒に楽しめる事業や子どもが文化芸術を体験できる事業を提携団体と連携し積極的に行い、地域の文化芸術の発展に寄与したと考える。また、当ホールでは全国規模の吹奏楽のコンテストが行われ、吹奏楽奏者にとって縁のあるホールとなっている特性を鑑み、事業提携団体のシエナ・ウインド・オーケストラの協力により、未来の演奏（実演）家を育てる「吹奏楽普及プログラム」を展開し、実演芸術の振興につながった。

■meet the music in Bunkyo 音楽普及プログラム

小中学校出前コンサート

子どもたちが普段通っている学校で、リラックスした環境で一流の演奏を聴き、アーティストと交流できる事業となった。教員向けのアンケートでも高い満足度を獲得した。



東京フィル・親子で楽しむ
“はじめてのオーケストラ”より

アーティスト・イン・音楽室

音楽専任教員との共演プログラムを取り入れたことで、普段は見られない先生の姿を紹介する機会にもなった。教員より、楽器の説明や授業の進め方等の参考になったとの意見も聞かれ、アウトリーチやアーティストから様々な気づきを得て、教育の現場に活かそうという意識が見受けられた。

響きの森アーツキャラバン

障害福祉サービス事業所の利用者を対象に事業を行い、普段ホールに足を運ぶ機会を得づらい方々に向けて、文化芸術を体験する機会を提供することができた。

文の京コミュニティコンサート

今年度はお寺とミュージアムという、ホールとは趣の異なる施設で事業を実施した。区内及び近隣地域における文化芸術の発展と活性化を促し、地域全体で様々な芸術に親しめる環境づくりを行うことができた。

東京フィル・親子で楽しむ“はじめてのオーケストラ”

「一緒に歌ったり、知っている曲がプログラムに入っていたりと、子どもが飽きないように工夫されていて良かった」「泣いてしまった子どもへの対応もしっかりされていて、楽しむことができた」など、概ね好評であった。はじめてホールに来場した方も4割近くにのぼり、文化芸術に親しむ区民のすそ野を広げることができた。

■吹奏楽普及プログラム

中学生のための吹奏楽クリニック

音楽教員一人で様々な楽器の取扱いや演奏技術について指導するには限界があるという、中学校教員の意見を踏まえ、プロの演奏家による視点できめ細かな指導を行っている。生徒の技術向上に加え、上級生が下級生に有効なアドバイスができるようになり、部全体の活性化とレベルアップにつながった。

シエナ de アン・コン! ~アンサンブルコンテスト~

小学校、中学校、高等学校、大学・一般の4部門に分けて参加団体を募集し、実施した。出演団体はコンテスト前のアンサンブル・レッスンの受講と、コンテストでの審査員からの講評により、レベルアップを図ることができており、実演芸術の振興に寄与した。

吹奏楽 3up プロジェクト

シエナ・ウインド・オーケストラ団員による「演奏お悩み相談」や、管楽器専門店の協力のもと「管楽器診断会」「楽器お手入れ講座」「楽器体験・試奏コーナー」を実施し、吹奏楽経験者のみならず、楽器未経験者も吹奏楽の魅力を経験できる機会になった。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

■事業運営について（3つの柱の実行）

・ホールの強みを活かした創造・発信力の強化

芸術性の高い公演やオリジナルの企画、多彩なジャンルの公演の継続的な実施に加え、SNS や広報紙等様々な広報媒体を駆使して各事業の魅力を発信し、観客層の拡充を図っている。

・共生社会への取組み

区民が主体的・継続的に舞台芸術活動に取組み、発表する場を創出しているほか、普段、ホールに出向く機会が少ない方々にも、文化芸術を身近に感じていただくことができるよう、アウトリーチ事業の充実化に取り組んでいる。

・事業提携団体との連携による事業の一層の充実と深化

4つの実演芸術団体との連携により、特に助成事業は質の高いプログラムが実現し、地域の人と文化芸術をつなぐ事業となった。また、各団体との良好な関係性に裏付けされた共催公演等の事業実績は、当ホールの音楽・芸術ホールとしての評価を高めるとともに、当財団が誇る大きな資産となっている。

■経営戦略について

当財団の社会的な信用の維持・向上のために、公益法人会計基準を適正にクリアした会計処理と、経営の公益性、透明性のある財務報告を着実に行っている。自主事業においては、区内のニーズの把握に努め、魅力ある事業を展開し収入の増加を図っている。また、貸館事業においては、利用者の多様性に応じたサービスを提供することで、高い稼働率を維持している。

■人事戦略

財団の経営計画に則り、新規固有職員の継続的な獲得等により自立した組織の構築に向けた取り組みを推進してきた。今後は、的確な職員配置や、専門的なスキルを持った職員の育成、経営戦略を踏まえた計画的な新規職員の採用により、組織の強化を図る。

■ネットワークの構築

助成事業等を通じて、区内の小・中学校や文化施設との関係性を深めているほか、大学・専門学校との協同による事業の実施（助成対象外事業）、大学からのインターンシップの受け入れ等、教育機関とのネットワーク強化にも力を入れている。

当財団では事業・組織強化のため経営計画を策定し、その確実な遂行のため、毎年財団全体で進捗状況を確認し、達成度を評価している。結果を理事会、評議員会で報告し、意見聴取の上次年度の事業計画に反映させており、計画事業は継続的に検証、改善され機能強化が図られている。

また、各個別事業についても事業終了ごとに反省会を実施し、事業の振り返り、次年度の改善点を協議しているほか、アンケート調査の分析を行い、PDCA サイクルを実施している。

今回の助成事業も経営計画に基づいた事業であり、助成を得て実施することで廉価又は無料で質の高い事業を地域の人々に提供でき、ホールの機能強化につながった。